Gallery 愛海詩 えみし

硝子工房GLOW（札幌市）
水木一成（みずきいっせい）
ガラス作品展

7月9日～7月21日

特別号　No.36
愛海詩の会
会　報
平成25年7月1日発行
編集発行人／ギャラリー愛海詩
佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

時を越えた旅

五月の末、「愛海詩の会」会員有志の方々、十二名ほどで二泊三日で鵜飼と伊勢神宮の旅をご一緒しました。それは、古（いにしえ）を求めての旅です。

鵜飼は千三百年ほど連綿と続けられている古典漁法です。篝火がたかれ、漆黒の川面を照らし、火の粉が飛び散る。川や時の流れを逆もどりさせるかのように、幽玄な世界が広がり、後方には金華山の頂上に岐阜城がライトアップされ、まるい美しい月が、北の街からはるばる来た私達を見守っているかのようでした。翌日も晴れて、一路、伊勢神宮へ……。伊勢神宮は今年、式年遷宮で、二十年に一度、社殿、神宝、装束などが一新される記念すべき年です。外宮では豊受大神宮（衣・食・住の守り神）、内宮では皇大神宮（こうたいじん）を主にご案内していただき、一般の方々がはいれない所を通して下さり、緊張しつつもより近く神を感じ、豊かな心持ちになりました。木々がおだやかに風と戯れ、その葉音が心の波をすくってくれるかのようでした。五十鈴川のせせらぎは光に満ち満ち、手を浸すと、ひやりと優しく潤してくれました。神官を始め、多くの方々が二千年もの間、変わらずこの地とお宮をお守りしているという計り知れないエネルギーの強さ、清々しさ、誠実さが日本人の心の故郷、聖地と言われる所以でもあります。正にその物語と共に誇りとなりうる、地ということ。

旅の心は様々なものを切りとり、気付かせてくれる。佳き人々をつなげる。素敵な作品、文化を伝えて行くことの私本来の立ち位置を返り見、その旅のエネルギーを仕事や生活に活かせたら…と現実にふわりと戻って日々を送っています。

旅では心地良い風が吹き、空は青く、清い水の流れがお支えする人々と共に幾千年も変わらずそこにあるものを教えてくれました。それはすばらしく、圧倒的で理解を越えるところにあったのです。

（佐藤　睦子）

作品を創作中の水木一成

●プロフィール

1981年　札幌市に生まれる
1999年　北海道札幌北陵高校　卒業
1999年　小樽　K's BLOWING　入社
2004年　長野　SUWAガラスの里　入社
2011年　硝子工房 GLOW 設立

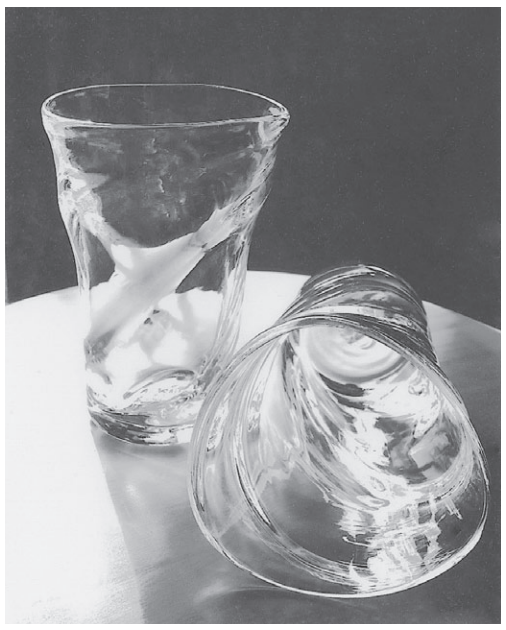
☆お知らせ　来たる**7月11日（木）、7月16日（火）の両日、午後1時30分から午後3時頃まで「水木一成を囲む会」**をいたします。
場所はギャラリー愛海詩2階。お茶、お菓子付きで参加料は無料です。各々11日（木）、16日（火）共、先着8名様です。
楽しい会になると思いますのでお誘い合わせの上、ギャラリー愛海詩までご予約下さいませ。

孔雀紋風鈴　本体：高さ8cm×巾7.5cm

風の声を聞けそうな風鈴である。
夏の光を集め、涼やかな音色をさわやかな風と共に送ってくれる。そして何か心地よい、懐かしい時を送ってくれそうな作品である。

孔雀紋花器　高さ15cm×巾11cm

花をいける器はよく洋服にたとえられるが、貴婦人のドレスを思わせる逸品である。そのまま飾っても素敵だが、どんな花をどのようにいけようかと、わくわくする花器である。沢山の光の色を集めて、お花もよりいっそう、活かされるに違いない。


ねじりグラス　高さ11.5cm×口径7.5cm

手持ちの良いクリアーなコップである。ゆるやかなたわみのラインが、手になじむ。日常の潤いに、大切な人へのプレゼントに、手作りの1点1点がたわみの違いにあらわれ、使いごこちのよさが形になっている。

銀彩香炉　高さ14cm×巾11cm

優しい香りを聞ける、目にも美しい香炉である。箔の雅さに涼やかな風が吹いているような作品である。三方の足付きがまた、おしゃれなたたずまい、そこに置くだけで静かな物語りが始まりそう…。

水木一成、ギャラリー愛海詩で初めての作品展である。花器、日常使いの器、香炉、置き物など、約四十点を展示する。

水木氏との出合いは今年、春まだ浅いある日、ギャラリー愛海詩にひょっこりいらして下さったのが縁となる。私は長年の感で、作品の見方、目線の流し方などから、作り手であることがすぐ理解できた。尋ねるとガラス作家だとおっしゃる。以前から気にかけていたガラス作家の弟子だったと聞いて、話しをするのも打ち解けていった。後日、作品を数点見せていただき、ギャラリー愛海詩の作品展がすんなりと決まった。聞けば、小学校の頃からガラス作家になりたいと思っていたという。水木氏にとってガラス作家は天職と言えるのかもしれない。作品を作っている時が楽しくて、楽しくて、という風だ。大変だけれど楽しい…というところが作品の活きの良さから伝わって来る。そしてまた、将来の伸びも作品から伺えた。

独立して4年、彼のプロフィールは数行でおわる。これから、どんなプロフィールが加わって行くのか楽しみな作家でもある。まだ若いのだが、仕事の要点をしっかりおさえる力量、技をもっている。

迷わず、ガラス作家であることに邁進してほしいと、私自身祈るような気持ちが基にあるのだ。ギャラリー愛海詩での作品展である。多くの方々に水木一成というガラス作家を育ててほしいと思う。

ご挨拶　～作品展によせて～

硝子工房GLOW　水木　一成

この度『愛海詩』さんで初めて作品展をさせて頂くこととなり大変嬉しく思います。この様な機会を与えて下さった佐藤様に心より感謝申し上げます。

故郷である札幌に設立した『硝子工房GLOW』は今年で2度目の夏を迎えようとしています。

よく聞かれる事があります。「なぜ札幌でガラスを?」と。北海道でガラスといえばやはり小樽が盛んで道内のガラス工房の多くは小樽にあり、自分のガラス人生もそこから始まりました。答えは「故郷だから」ただそれだけです。当時いた長野県から工房を設立するため北海道に戻り準備をしていたのが二〇一一年。その最中に東北であの大震災が起きました。当時メディアから流れる凄まじい現実を目の前に、自分が今から作ろうとしているガラス工房は本当に世の中の為なのだろうか?極限の状態の時は真っ先に必要なモノではなくなるだろうし…。ましてやエコとは言えない二十四時間絶やす事の無い炉の火…。ガラスは土にも還らない。自分がサイコーと思ったとしてももし売れなければただのゴミとなるかもしれない…。本当に色々な事を考え、悩み改めてこのガラスを作るという仕事を見つめ直しました。

それでも自分にはこれしかない、気に入ってもらい永く使われ続ける事もエコと言えるだろうし何より好きな事を一生懸命することが世の中の為になる一番の近道なはず。そう信じてまずは自分の作ったガラスで身近な人達や慣れ親しんだ故郷の人達から幸せに出来たとしたらどんなに嬉しいだろうか、そして少しずつ世の中に広めていければ…まずはそこから始めよう。

何気ない普通の生活に溶け込むことも出来て、欠かすことの出来ない特別なモノにもなれる様な、そんなガラスを皆様にお届けしたいと思っております。会期中ぜひ、ご高覧下さいませ。

ギャラリー愛海詩、オープン時間のお知らせ

午前11時30分～午後6時まで。
・木曜日、午後1時～午後6時まで
・月曜日、定休日

愛海詩の会からお知らせ

8月20日（火）北海道書道の重鎮でいらっしゃる、阿部和加子先生をお迎えし、講演会をさせていただきます。先着50名です。詳しいことは愛海詩の会事務局までお問い合わせ下さい。〔電話011(613)1112〕ギャラリー愛海詩内

お聞き下さい。

毎週木曜日、**FMラジオカロス札幌、78.1MHz**でギャラリー愛海詩の佐藤がパーソナリティーを務めさせてもらっております。番組名は**「木曜而今（じこん）」午前11時～11時55分**。様々な文化的な働き、素敵な人達とのつながり、職人、作家達の手仕事を広く知っていただく、をコンセプトに、たどたどしくも楽しんでさせていただいてます。